

豊かな自然環境・織りなす風景をつくる

# 奈良の生物多様性



奈良県には多くの美しい風景がある。懐かしさを感じたり、ほっとするような景観が各地に多く存在し、訪れる人の目を楽しませている。

それらの風景を形づくっているのは、動物、植物、菌類など、数えきれないほどの様々な生物の存在だ。人間だけではなく、生物が生息し、影響しあっているからこそ、全く同じ姿のない美しい自然環境を私たちに見せてくれている。これらの美しい景観を守っていくには、異なる環境で生きる様々な生物と調和していくことが必要だ。

1992年には、国際条約「生物多様性条約」が可決された。日本も締結国である。この条約は、世界中の自然を各国で協力しあって守ろう、という動きであると聞くと、自分ごととして実感しづらいかもしれない。しかし、実際は、環境省が中心となり、各道府県がそれぞれに戦略を策定、市町村や企業、組織と協力しあって実施している。身近なところでは、学校の遠足や社会見学、県や市町村が主催する季節のイベント、手にとった地元企業の商品が、生物の多様性を守るためにつながっていることがある。

今回の特集では「生物多様性」を

より身近に感じ、意識をしてもらうためのきっかけとして、この条約の動きと、奈良県や地域での取り組みについて紹介する。

## 奈良の美しい景観資産

奈良県には、世界に誇る歴史文化遺産や、それらと一体をなす歴史的風土と豊かな自然環境が数多く存在します。



二上山を眺望できる旗尾池湖畔



奈良公園と奈良盆地が眺望できる若草山中腹



山の辺の道周辺に広がる穴師の棚田と三輪山の風景



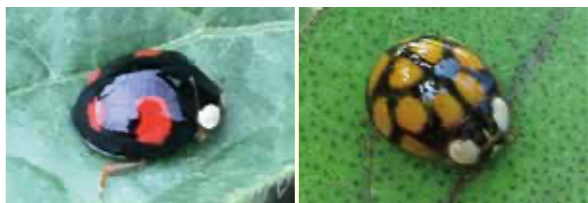
県道川津高野線沿いの雲海景勝地



# どうして生物多様性保全が必要なの？

## 生物多様性って？

生物多様性とは、多様な生物が存在し、互いにつながり、調和していること。生物多様性には生態系・種・遺伝子の3つのレベルの多様性がある。これらはそれぞれのバランスがとれていることで生物多様性は保たれ、多様な生物のつながりが生み出す豊かな自然の恵み（供給・調整・文化・基盤）を私たちにもたらしている。

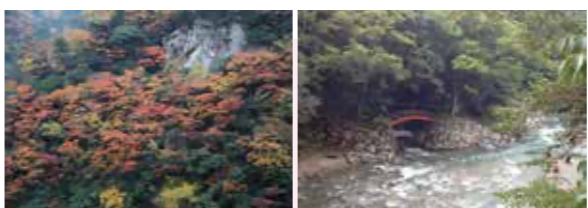


### 遺伝子の多様性

同じ種でも異なる遺伝子を持っていて、形や模様などの見た目が違う場合や、生息地が限定されている場合がある。遺伝子の違いが、生息地となっている場所の環境破壊や病から、種を守ってくれるかもしれない。

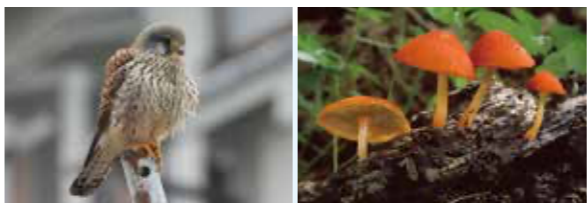


写真はすべてナミテントウ



### 生態系の多様性

生物が生きる自然環境（生態系）には森林、草地、川、畑、溜池など様々なタイプがある。奈良県も、山間部、平野、市街地、湿地と乾燥地など、多種多様な生態系が存在する。



### 種の多様性

動物、鳥、花、木、きのこや酵母などの微生物…。奈良県には多くの種の生物が確認されている。植物が哺乳類や鳥類などのエサになり、動物の死骸や糞が微生物や植物の栄養になり、それぞれが関係しあっている。



この3つそれぞれのバランスがとれていることで、生物の多様性が保たれる。こうした生物の多様性は、私たちに様々な恵みを与えてくれている。

## 世界的な背景

1970年以降、地球の自然環境を守ろうという動きが世界的に活発になった。1992年に国連開発会議（地球サミット）で採択された「生物多様性条約」は、生物多様性を考え、その保全を目指すための国際条約で、194カ国とEU、パレスチナが参加、日本も参加国である。

昨年12月、15回目の締約国会議が開催され、陸と海の30%を保護



区域とするなど、新たな世界目標をかかげた「昆明・モントリオール生物多様性枠組」が採択された。

日本では新たな世界目標に対応するため、本年3月に「生物多様性国家戦略2023-2030」を策定した。

奈良県でもこれまで「生物多様性なら戦略」を策定し各種取り組みを行ってきた。現在、新たな国家戦略に合わせて、県の戦略の改定作業中である。

# 地域の取り組み・福住小中学校でのヤマトサンショウウオの発見



令和3（2021）年4月、天理市福住で、旧福住小学校と旧福住中学校が施設一体型の小中一貫教育を行う「福住小中学校」として新しくスタートした。

この学校では、子どもたちは、独自カリキュラム「福住学」を通して、「福住のすてき発見」「福住のすてき発信」を目標に、プロジェクト学習を行っている。環境保全活動や環境学習を積極的に行い、全校児童・生徒が「こどもエコクラブ」のアスレンジャーに認定されたほか（※1）、令和4（2022）年2月にはユネスコスクールの国内審査に満点で通過、キャンディデイト校に認定された。

福住小中学校生物部は、G5（小学部5年）～G9（中学部3年）の生き物好きが集い、生徒の発案で新たに発足した。

生物部にとって、最大のビッグニュースはヤマトサンショウウオの発見だ。奈良県版レッドデータブックにも掲載されている絶滅寸前種で、以前から、福住では「畑ドジョウ」と呼ばれる生き物の生

息が伝えられてきたが、ここ数年は目撃談がなかった。生物部は、毎年産卵期である3月に生息調査を行い、ついに令和5（2023）年3月、ヤマトサンショウウオの受精卵と成体を発見することができた。

ヤマトサンショウウオは里山の湿地等、人間の生活圏に近い場所で生息している希少な種だが、今、圃場整備（※2）や人工河川の整備により、昔ながらの里山の風景・環境がなくなっている。生物部は、福住の人々と、多種多様な生き物たちが共生する里山を守りたいと考え、福住の里山の保全・再生にも取り組んだ。それがヤマトサンショウウオのような希少な生物を守り、生物多様性保全に繋がると考えるからだ。

生物部から始まった活動は、現在、地域の方々、行政、専門家等にまで広がり、多くの人が子どもたちの活動、ヤマトサンショウウオの保全に協力している。たとえば、生息地周辺は、地元の方々が毎日見回り、ヤマトサンショウ

オを守ってくれている。

福住小中学校の生徒たちの活動が今後もよりいっそう広がり、未来へと受け継がれ、「絶滅寸前種ヤマトサンショウウオの保護活動」、そして「福住の里山の保全・再生」が、一歩でも前に進むことを願ってやまない。

※1 こどもエコクラブは環境省が設立した子どもが誰でも参加できる環境活動クラブで、現在は公益財団法人日本環境協会が運営する。アスレンジャーは、1年間で5回以上活動したメンバーに送られる認定証。

※2 圃場整備：農地の区画、農道、農業用排水路などをまとめて整備すること





# 奈良県のこれまでの主な取り組み



## 奈良県サクラ見守り隊

奈良県には日本一の桜の名所として知られる吉野山や、賀名生梅林、月ヶ瀬梅溪など、桜や梅の名所が多い。ところが令和元(2019)年、奈良県内で、これらの木を枯らす昆虫の被害が発見された。

アカツヤカミキリで、サクラ、ウメ、モモなどのバラ科の植物を好む。クビアカツヤカミキリの幼虫が樹木内に入り込んで内部が食い荒らされることで、木が枯れてしまう。このため、国の「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」により、飼育や保管、運搬、輸入、野外への放出等が禁止されている。

# 奈良の希少な生き物たち

奈良県では「奈良県希少野生動植物の保護に関する条例」により、県内において特に保護を図る必要性が高い11種を「特定希少野生動植物」に指定している。その一部を紹介しよう。

## ナゴヤダルマガエル

ナゴヤダルマガエルは、ずんぐりした体型の、足の短いカエルである。ジャンプ力が弱く、あまり長距離の移動をしない。そのためか、生息地は極めて限られている。かつては県内に3カ所、大きな生息地が確認されていたが、開発等の影響で、現在まとまった生息地は1カ所だけになっている。トノサマガエルとの雑種も増えており、純粋なナゴヤダルマガエルは珍しくなった。

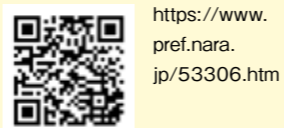
## キレンゲシヨウマ

キレンゲシヨウマは深山でひっそり生育し、夏に可憐な黄色い花を咲かせるアジサイ科の植物である。愛好家による盗掘や、シカの食害で激減し、県内でもごく一部に残るのみとなった。地元の有志が中心となって、獣害ネットを張るなど保護活動が行われている。野生植物を持ち帰る愛好家がいるが、その多くは希少な生き物であり、人間の宝物である。勝手に持ち帰るのはやめて頂きたい。



奈良県では、クビアカツヤカミキリを早期発見し、駆除するため、令和4(2022)年から「奈良県サクラ見守り隊ボランティア隊員」を募集している。今年令和5(2023)年は小学1年生から80代まで約130人の応募があり、6月には隊員向け講習会が実施された。

クビアカツヤカミキリに関する情報を奈良県のWebサイトで公開しています。被害拡大防止にご協力をお願いします。



# 私たちにできること

## 5つのアクションを意識する

現在見直し中の「生物多様性なら戦略」案の中では、「生物多様性のためにできる5つのアクション」が提案されている。どれも生物多様性の恵みを体感し、学ぶだけでなく、楽しむことができるものばかりだ。そういったイベントがある場合は、ぜひ積極的に参加してほしい。

- 食べる** 地域のもの、旬のものを食べる
- 触れる** 自然の中に出かけ、生き物と触れ合う
- 伝える** 自然の素晴らしさや季節のうつろいを人に伝える
- 守る** 生き物の観察会や保護活動に参加する
- 選ぶ** 環境に配慮した商品を選ぶ

## ふるさと納税で協力する

奈良県にふるさと納税をするとき、自分の寄附金の使い道を選ぶことができる。奈良県では「自然界と人の共生に向けた生物多様性の保全」に使われるように指定もできる。

## 奈良県版レッドデータブック

希少な生き物たちを守るためには、まず、奈良県にどんな希少な生き物がいるかを知ることが重要である。どの生き物が奈良県において絶滅の危機にあるか、それを示すのが奈良県版レッドデータブックである。

生き物は全国どこにでも同じようにいるわけではなく、地域ごとに、たくさんいる場所、いない場所がある。全国的にはたくさんいるが、奈良県では絶滅寸前という生き物もいる。同じ種であっても、地域ごとに少しずつ遺伝子が異なるため、遺伝子の多様性を守るためには、地域個体群の保護が重要となる。このため、全国版のレッドデータブックだけでなく、地域版のレッドデータブックを作ることが大切なのだ。

奈良県では2006年に初めて奈良県版レッドデータブックを出版し、2016年には改訂版を発行、現在、第3次改訂作業を行っている。



## ふるさと納税情報

- 1 ふるさとチョイス(<https://furusato-tax.jp>)にアクセス
- 2 「地域を探す」から「奈良県」を選択
- 3 「自治体一覧」から「奈良県」を選択
- 4 商品を選択するか「お礼の品不要の寄附をする」を選択する
- 5 寄附金の使い道で【自然界と人の共生に向けた生物多様性の保全】絶滅の恐れがある野生動植物の調査・保護を選択する

※以降は画面にしたがって入力

## 県民、旅行者等の皆さん

希少野生動植物の生息・生育に支障を及ぼすことのないように気を配り、県が実施する保護施策に協力しましょう。

## 事業者の皆さん

事業活動を行うときは、希少野生動植物の生息・生育する環境の悪化を防ぎ、県が実施する保護施策に協力しましょう。

## 県

条例に基づき基本方針を策定し、個体の保護や生息地等の保全など保護施策を推進します。